

数字を読み解く「プラス 16.5%」  
～2022 年度の大分県における旅客輸送人員の前年度比～  
＜2024/6/20 大分合同新聞掲載＞

数字は「自動車輸送統計調査」にある、大分県における 2022 年度旅客輸送人員の前年度比だ。同統計は、自動車を使った貨物・旅客の輸送実態を明らかにすることなどを目的とする基幹統計で、貨物輸送量や旅客輸送量などのデータが公表されている。このうち旅客輸送量は、バスやタクシーなどの輸送人員量を指す。

22 年度の旅客輸送人員は、前年度比でプラス 16.5%と増加した。前年度比を子細に見ると、乗り合いバスはプラス 11.4%、貸し切りバスはプラス 27.9%、乗用車（主にタクシー）はプラス 24.0%となった。感染症の影響が緩和し外出機会が増加した結果、公共交通機関を利用する人が増えたことが要因であると考えられる。最近のデータでも大分県の輸送人員数は緩やかな回復を続けており、同統計の月報によると 24 年 2 月の乗り合いバスの旅客人員は、19 年比でプラス 11.5%となっている。

他方、課題になるのが公共交通機関の運転手不足である。大分労働局によると、自動車運転手の有効求人倍率（原指数）は 4 月の時点で 2.62 と、全職業の 1.23 を大幅に上回っており、人材の不足感が強いことがわかる。実際、人手不足を背景に県内のバス会社では乗り合いバスが減便されるなど、その影響が顕在化している。こうした背景には改善基準告示が改正され、長時間・過重労働が課題となっているバスやタクシー運転手の健康を確保する観点などから、時間外労働や拘束時間、休息期間に関する規制が見直された影響もある。

公共交通機関は地域住民の生活を支えるのみならず、観光客の交通手段として観光産業の動向にも影響するため、今後も幅広い視点から動向を注視していきたい（日本銀行大分支店）。